

# だいざいれい 題材例

## かいせつしょ 解説書



この題材例解説書は、作品をつくる時に参考にするものです。  
作品は、宮代町に関するものであれば、この解説書にのっているもの以外を題材として作ることもできます。

### もくじ

歴史・文化財	【遺跡】… 3 ページ
歴史・文化財	【寺社】… 4 ページ
歴史・文化財	【文化財】… 14 ページ
歴史・文化財	【歴史】… 16 ページ
歴史・文化財	【人物】… 18 ページ
歴史・文化財	【伝承・伝説】… 21 ページ
歴史・文化財	【伝統行事】… 23 ページ
歴史・文化財	【その他】… 24 ページ
自然・地理	【河川】… 25 ページ
自然・地理	【自然】… 27 ページ
まちづくり	【行事】… 27 ページ
まちづくり	【その他】… 29 ページ
産業	【特産品】… 31 ページ
施設	【町施設】… 31 ページ
施設	【その他】… 37 ページ



【番号】 1 【分野】 歴史・文化財／遺跡

【名前】 まえはらいせき  
前原遺跡 場所／字中

現在、前原中学校の校庭である町営グラウンドの整備に伴い発掘された旧石器時代（約2万年前）から縄文時代後期（約3500年前）の遺跡。埼玉県内でも最古級の縄文時代早期（約8千年前）のムラの跡からは、土器や石器のほか、石偶（せきくう）と呼ばれる石でできた小さな人形が発見された。

【町指定文化財】ひりゅうきせんもん 縄文時代草創期微隆起線文土器、旧石器時代石器群 ●文化財案内板「前原遺跡」



前原遺跡

第5・6号住居跡



石偶(せきくう)

【番号】 2 【分野】 歴史・文化財／遺跡

【名前】 やまさきやまいせき  
山崎山遺跡 場所／字山崎

平成2年度の発掘調査によって埼玉県で最古の約1600年前の鍛冶工房跡（※）が発見された。当時の最先端技術であった鍛冶工房の存在は、この地域の地理的・交通的な重要性、さらには畿内（きない）大和王権との関係を示している可能性もある。

※鍛冶工房跡（かじこうぼうあと）…鉄を溶かして不純物を取り除き、その鉄をハンマーなどで叩いて錐（キリ）などの鉄製品を作った場所。



山崎山遺跡

鍛冶工房跡



鍛冶工房のイメージ図

【番号】 3 【分野】 歴史・文化財／遺跡

【名前】 ひめみやじんしゃこふんぐん  
姫宮神社古墳群 場所／字姫宮

姫宮神社の境内にある古墳群。発掘調査が行われていないため、具体的な内容は不明だが、本殿の東側にある八幡社は、周辺より2mほど小高くなっており、付近からは埴輪（はにわ）も発見されていることから、複数の古墳（古墳群）が存在していたと思われる。また、同じ年代の大規模なムラの跡が近くの道仏遺跡で発見されており、この古墳群は道仏のムラの支配者層の墓であったと推測されている。



姫宮神社古墳群

埴輪(はにわ)

【番号】 4 【分野】 歴史・文化財／遺跡

【名前】 かねはらいせき  
金原遺跡 場所／字金原

平成16年度の埼玉国体のアーチェリー会場（はらっパーク宮代）の整備に伴い、平成8年度から約2年半に渡り発掘調査が行われた。特に、18軒の住居跡やおびただしい数の土器や石器等が発見された縄文時代後期（約3900年前～3700年前）は、大規模なムラを形成していたと思われる。

●文化財案内板「金原遺跡」



金原遺跡

第7号住居跡



第226号土坑遺物出土状況



【番号】 5 【分野】 歴史・文化財／遺跡

【名前】 さかさいいせき  
逆井遺跡 場所／字逆井

平成6年度～7年度に、下野田逆井地区ほ場整備事業等に伴い発掘調査が行われた。大宮台地でも数が少ない旧石器時代終末期（約1万3千年前）の細石器（※）と呼ばれる石器の製作跡が発見された。

※細石器（さいせっき）…長さ2～3cm、幅0.5cm程度の小型の石刃（細石刃）を木の棒や骨の側縁に並べてはめ込んだ槍先状の石器

【町指定文化財】第1号ブロック出土石器（細石器）



【番号】 6 【分野】 歴史・文化財／遺跡

【名前】 どうぶついいせき  
道仏遺跡 場所／字道仏

道仏土地区画整理事業等に伴い、複数回に渡り発掘調査を実施。平成26年度までの発掘調査で、古墳時代中期（約1550年前）～後期前半（1450年前）の住居跡が約150軒発掘されており、埼葛地区でも最大規模の集落が存在していたと推定される。また、遺跡の南側対岸約700mには姫宮神社古墳群があり、道仏のムラ長が葬られた古墳であると推定されている。

【関連題材】姫宮神社古墳群（番号3）



【番号】 7 【分野】 歴史・文化財／遺跡

【名前】 どうぶつきたいせき  
道仏北遺跡 場所／字道仏

道仏土地区画整理事業等に伴い、平成15年度～25年度にかけて8回に渡り発掘調査を実施。縄文時代早期後半（約7000年前）から中期初頭（約4700年前）、現在よりも海水面が高く宮代町にも海（奥東京湾）が及んでいた時期の集落跡が発見された。特に、中期初頭の住居跡は、全国的にも珍しく埼葛地区で初めての発掘事例である。

●文化財案内板「道仏北遺跡」



【番号】 8 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 ひめみやじんじや  
姫宮神社 場所／字姫宮

江戸時代、旧百間村の鎮守（ちんじゆ）であり、百間領と呼ばれた宮代、白岡、久喜、春日部の一部にまたがる27カ村の総鎮守でもあった。本殿は、江戸時代中期、正徳5年（1715年）の建築と推定される。現町名の「宮代町」は、この神社の「宮」と旧須賀村の鎮守、身代神社の「代」から名付けられたもの。

【関連題材】姫宮神社絵馬（番号49）、宮目姫の伝説（番号74）

●文化財案内板「姫宮神社」





【番号】 9 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 ごしゃじんじや  
五社神社 場所／字東

字東にある神社。旧百間東村の鎮守。熊野三山、白山、山王の五社（五つの神）を一棟等間隔に合わせ祀ることから五社神社と称される。創立は、奈良時代の僧「行基（ぎょうき）」によるものと伝えられている。五間社流造りの本殿は、安土桃山時代の特徴を伝える建物。また、本殿内部に納められた御神体の和鏡（わきょう）には5つの仏像が納められている。

【関連題材】 五社神社のみかん投げ（番号83）

【県指定文化財】 五社神社本殿

【町指定文化財】 和鏡、多少庵句碑、多少庵俳額

●ふるさと歩道案内板「五社神社」

五社神社



【番号】 10 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 かねはらいなりしや  
金原稲荷社 場所／字金原

江戸時代、旧百間金谷原組の鎮守（ちんじゅ）。祭神は、倉稲魂命（うがのみたまのみこと）を祀る。もともとは、宮崎坊（西光院の末寺）の境内（けいだい）にあった。安永4年（1775年）に京都の伏見稲荷大社から正一位の位階を与えられたことがわかる文書が残されている。

境内には、明治41年に字金谷原前から移転したという金山（かなやま）大神社（鍛冶屋集団が信仰する職業神を祀る）がある。



金原稲荷社

【番号】 11 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 はすやいなりじんじや  
蓮谷稲荷神社 場所／字百間

江戸時代、旧蓮谷村の鎮守。祭神は、倉稲魂命（うがのみたまのみこと）を祀る。創建には諸説あるが、江戸時代の初期、当地の名主加藤氏により勧請されたとする点で一致する。御神体を納めた箱に書かれた文字から、明和3年（1766年）に京都伏見稲荷神社から正一位の位階を与えられていることがわかる。また、周囲には、蓮谷庵という寺院もあった。本殿は江戸時代のもので、中世以来の神社建築様式である見世棚造。



蓮谷稲荷神社

【番号】 12 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 どうぶついなりじんじや  
道仏稲荷神社 場所／字道仏

江戸時代、旧百間中島村の鎮守。主祭神は、倉稲魂命（うがのみたまのみこと）、大己貴命（おほなむちのみこと）。

創建は、元和5年（1619年）の勧請と伝えられているが、岩崎家文書の「正一位稲荷五社太明神安鎮之事」には、宝暦5年（1755年）に鎮座とある。

現在の本殿は、江戸時代文化年間（1804年～1818年）に再建されたものと伝えられる。



道仏稲荷神社



【番号】 13 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 わかみやばちまんじんじゃ  
若宮八幡神社 場所／字中島

明治時代、旧百間中島村の村社。祭神は、菅田別命（ほんだわけのみこと）を祀る。

江戸時代の初め、高橋七郎兵衛という人が鎌倉の鶴岡八幡宮の分霊を屋敷内に祀り、その後農耕の神として地域の人々からも信仰され、江戸時代の中頃に当地の鎮守として祀られたことがその起こりと伝えられている。

●文化財案内板「若宮八幡神社」

若宮八幡神社



【番号】 14 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 このしろじんじゃ  
身代神社 場所／学園台1丁目

旧須賀村の鎮守。主祭神には、素戔鳴命（すさのおのみこと）を祀る。創建は、鎌倉時代の仁治3年（1242年）と伝えられる。神社脇にある身代池には「おいてけ堀伝承」や「龍神伝承」がある。

現町名の「宮代町」は、旧百間村の鎮守、姫宮神社の「宮」と、この神社の「代」から名付けられたもの。

〔関連題材〕 おいてけ堀（番号77）

●文化財案内板「身代神社」



身代神社

【番号】 15 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 ひがしくめはらわしのみやじんじゃ  
東条原鷲宮神社 場所／大字東条原

江戸時代、旧東条原村の鎮守。祭神は、天穗日命（あめのほひのみこと）を祀る。門前を鎌倉街道が通っており、宿屋敷という地名が残されているほか、室町時代の「市場之祭文（いちばのさいもん）」には、久米原に市が立ったことが記されている。延享2年（1745年）が起源とされる獅子舞が伝えられている。

〔関連題材〕 鎌倉街道中道（番号57）、東条原鷲宮神社の獅子舞（番号81）、須賀・久米原の市（番号88）

●文化財案内板「東条原鷲宮神社」



東条原鷲宮神社

【番号】 16 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 にしくめはらわしのみやじんじゃ  
西条原鷲宮神社 場所／大字西条原

江戸時代、旧西条原村の鎮守。祭神は、天穗日命（あめのほひのみこと）を祀る。御成道沿いにあり、江戸時代、天保14年（1843年）、第12代将軍の徳川家慶が、日光社参（※）の途中に休憩した記録が残されている。

※将軍が徳川家康が祀られている日光東照宮へ参詣すること。

〔関連題材〕 日光御成道（番号58）

●文化財案内板「西条原鷲宮神社・御成道」



西条原鷲宮神社



【番号】 17 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 らいでんじんじゃ  
雷電神社 場所／大字国納

江戸時代、旧国納村の鎮守。祭神は、別雷命（わけいかづちのみこと）を主神として、菅原道真公、猿田彦命を祀る。創建は定かではないが、群馬県板倉町の雷電神社を勧請したと伝えられ、土地の人々から「板倉様」と呼ばれている。本殿は江戸時代のもので、中世以来の神社建築様式である見世棚造。

●文化財案内板「雷電神社」



雷電神社

【番号】 18 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 うのみやじんじゃ  
宇宮神社 場所／大字和戸

江戸時代、旧和戸村の鎮守。祭神は、天穗日命（あめのほひのみこと）ほか三神を祀る。

創建は定かではないが、文明 16 年（1484 年）に再建したと伝わる古い社である。隣接して、本山派修験の小淵不動院末の本覚院があり、明治時代初期に廃寺となったが、「円空仏」4 点が伝えられている。

●文化財案内板「宇宮神社・本覚院跡」



宇宮神社

【番号】 19 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 しんめいじんじゃ  
神明神社 場所／字山崎

宿（百間本村）の鎮守で、祭神は、大日靈貴命（おおひるめむちのみこと）を祀る。

この辺りに屋敷があった松永源太左衛門による創立と伝わり、五穀豊穡（ごこくほうじょう）、無病息災（むびょうそくさい）の神として信仰されてきた。境内には、百間本村の高札場や「従是佐倉領」のぼう示杭があったようである。

【関連題材】 源太山（番号 89）



神明神社

【番号】 20 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 あかまつせんげんじんじゃ  
赤松浅間神社 場所／字山崎

江戸時代後半に富士信仰の神社として創建された。祭神は、木花咲耶姫命（このはなさくやひめのみこと）を祀る。以前、赤松の大木があったことから赤松浅間社と呼ばれている。

毎年 7 月 1 日に、子供の成長を願う「初山（はつやま）」の行事が行われている。

●ふるさと歩道案内板「浅間神社」



赤松浅間神社



【番号】 21 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 わどせんげんじんじや  
和戸浅間神社 場所／大字和戸

創建の年代は明らかではないが、個人持ちであった社を、文化14年（1817年）に富士信仰の集団である富士講持ちの神社としたと伝えられる。明治32年の東武鉄道の敷設に伴い、現在の場所に移転している。毎年6月30日の祭礼は「ウラ浅間」と呼ばれ、子供の成長を願う「初山（はつやま）」の行事として多くの参詣者で賑わう。

●文化財案内板「浅間神社」



和戸浅間神社

【番号】 22 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 たつしんでんせんげんじんじや  
辰新田浅間神社 場所／本田4丁目

元々は、稲荷社の境内社であった。現在の社は、昭和49年に辰新田集会所と棟続きで建てられたもの。祭神は、木花咲耶姫命（このはなさくやひめのみこと）を祀る。毎年7月1日に、子供の成長を願う「初山（はつやま）」の行事が行われている。この初山の際に、山崎の「赤松浅間様」と杉戸の「河原の浅間様」、そしてこの地の浅間様の三か所を参拝する「ミヤマ（三山）」と呼ばれる習わしがある。

●文化財案内板「安養庵・浅間神社」



辰新田浅間神社

【番号】 23 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 じゅうどのしや  
重殿社 場所／字山崎

山崎地区の鎮守で、山崎山雑木林の一角にある。祭神は、金山彦命（かなやまひこのみこと）を祀る。地元では「権現様」とも称されている。拝殿に見られる多数のぞうりは、足の病に対する信仰のために奉納されたもの。

●文化財案内板「重殿社」



奉納されたぞうり

重殿社

【番号】 24 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 へんてんしや  
弁天社 場所／百間2丁目

東武動物公園駅東口の弁天町にある祠（ほくら）。御神体である石塔は、江戸時代、寛政年間（1789年～1801年）に川島講中20人の人達によって造立されたもの。古利根川の流作場新田（りゅうさくばしんでん）である牛高入百間村新田内にあった。地域を古利根川の水害から守ってもらうという祈りを込めて川の神様である弁財天を祀ったものと思われる。



弁天社



【番号】 25 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 てんじんしゃ  
天神社 場所／大字和戸

和戸沖の山の鎮守で、祭神は、菅原道真を祀る。江戸時代、和戸村内にあった本山派修験の寺である本覚院が管理していた。



天神社

【番号】 26 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 あたごじんしゃ  
愛宕神社 場所／大字和戸

和戸の本郷の鎮守で、祭神は、軻遇突智命（かぐつちのみこと）を祀る。江戸時代、西方院が管理していた。社殿は富士塚を思わせるような小高い場所にある。



愛宕神社

【番号】 27 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 さいこういん  
西光院 場所／字東

新義真言宗の寺。奈良時代の僧「行基（ぎょうき）」による草創と伝えられる。本尊は薬師如来。もとは百間山光福寺と称し、戦国時代の末期頃から西光院と称されている。江戸時代には、その末寺、門徒を合わせて 27 か寺を数え、この付近の新義真言宗の中心的寺院であった。明治6年（1873年）には、百間小学校の前身である進修学校が置かれた。

【関連題材】 西光院阿弥陀三尊像（番号46）ほか

【国指定重要文化財】 阿弥陀三尊像

【町指定文化財】 中世文書、徳川家康画像（番号47）ほか

●ふるさと歩道案内板「西光院」



西光院

【番号】 28 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 ほうしょういん  
宝生院 場所／字中

新義真言宗の寺。西光院の末寺で、姫宮山と称し、本尊は不動明王を祀る。室町時代の創建と伝えられている。室町時代（応永21年、1414年）に作られた鰐口（わにくち）には、「武州太田庄南方百間…」とあり、現存の資料において、百間の地名が出てくる最古のもの。明治時代には、「進修学校（百間小学校）」の校舎として使われていた。

【関連題材】 宝生院の大イチョウ（番号97）、百間小学校（番号127）

【町指定文化財】 鰐口、大イチョウ、円空仏

●ふるさと歩道案内板「宝生院」



宝生院

鰐口（わにくち）



【番号】 29 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 いおういん  
医王院 場所／字道仏

新義真言宗の寺。西光院の末寺で、本尊は不動明王を祀る。江戸時代の初めごろ、島村出羽宗明が創立したと伝えられる。新四国八十八ヶ所霊場の八二番。明治9年(1876年)から中島学校が置かれ、明治19年に百間小学校に統合された。

【関連題材】 島村出羽宗明(番号71)



医王院

【番号】 30 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 しょうりんじ  
青林寺 場所／字西原

新義真言宗の寺。西光院の末寺で、本尊は不動明王を祀る。創立年代や由緒は不明であるが、「昔は山崎にあったが、火災にあったので現在地に移転した」と伝えられる。また、室町時代の五輪塔や板石塔婆などがある。明治時代～大正時代には、百間村役場が置かれていた。新四国八十八ヶ所霊場の八三番。

●ふるさと歩道案内板「青林寺」



青林寺

【番号】 31 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 へんじょういん  
遍照院 場所／字金原

新義真言宗の寺。西光院の末寺で、金谷山と号し、本尊は地藏菩薩を祀る。創立については、平安時代、応徳2年(1085年)清範法師により開かれた説と天正元年(1573年)に祐源が開いたという説がある。新四国八十八ヶ所霊場の八四番。

●ふるさと歩道案内板「遍照院」



遍照院

【番号】 32 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 しんぞういん  
真蔵院 場所／大字須賀

新義真言宗の寺。幸手市にある正福寺の末寺で、医王山大福寺と称し、本尊は不動明王を祀る。鎌倉時代の創建と伝えられ、門前には、鎌倉街道中道(なかつみち)が通る。境内には、鎌倉時代の「身代り薬師」の伝承が伝わる薬師堂のほか、江戸時代に建立された町唯一の仁王門があり、その題額は、江戸時代中期の著名な書家「三井親和(みついしんな)」によるもの。円空仏も伝わっている。

【関連題材】 身代り薬師(番号75)、須賀・久米原の市(番号88)

●文化財案内板「真蔵院・鎌倉街道」



真蔵院

仁王像



【番号】 33 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 さいほういん  
西方院 場所／大字和戸

新義真言宗の寺。幸手市にある正福寺の末寺で、岩舟山と称し、本尊は阿弥陀如来を祀る。平安時代の創建と伝えられる。町指定文化財の十一面観音像は、室町時代の作で、明治時代までは観音堂の本尊であった。25年に一度開帳される秘仏で、古くから子育て観音として知られている。

【関連題材】 西方院十一面観音像（番号50）

●文化財案内板「西方院」



西方院

【番号】 34 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 みょうほんじ  
妙本寺 場所／大字東桑原

日蓮正宗の寺。駿河国富士郡大石寺の末寺で、経王山と号し、本尊は十界曼荼羅を祀る。鎌倉時代、嘉元元年（1303年）日尊が開山したと伝えられる。



妙本寺

【番号】 35 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 ほうこうじ  
宝光寺 場所／大字西桑原

曹洞宗の寺。白岡市の興善寺の末寺で、慈眼山と称し、本尊は地藏菩薩を祀る。一説には、天文元年（1532年）創立とされる。明治6年（1873年）に須賀小学校の前身である西條学校（さいじょうがっこう）の創立時の校舎として使用された。また、明治22年～40年までは須賀村役場としても使われた。

【関連題材】 ぶっさり地藏（番号78）、須賀小学校（番号127）

●文化財案内板「宝光寺」



宝光寺

【番号】 36 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 こんごうじ  
金剛寺 場所／大字須賀

曹洞宗の寺。白岡市の興善寺の末寺で、大慈山と称し、本尊は十一面観音を祀る。室町時代後期の創立と伝えられ、付近からは板碑（いたひ）と呼ばれる中世の塔婆（とうば）も発見されている。毎年8月10日ごろに「観音様の灯籠（とうろう）まつり」が行われている。

●文化財案内板「金剛寺」



金剛寺



【番号】 37 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 けそういん  
華蔵院 場所／大字国納

新義真言宗の寺。幸手市の正福寺の末寺で、蓮台山安楽寺と称し、本尊に正観音を祀る。  
創立は、鎌倉時代末と江戸時代中頃の説がある。  
新四国八十八ヶ所霊場の七二番。



華蔵院

【番号】 38 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 じそういん  
地藏院 場所／字西原

新義真言宗の寺。西光院の末寺で、本尊には勝軍地藏（しょうくんじそう）を祀る。  
創建は明らかではないが、院内には本尊のほかに数体の仏像が安置されており、阿弥陀如来坐像は、平安時代末期から鎌倉時代初期の仏像で、埼玉県東部地域に残る古い仏像の一つとして貴重。また、江戸時代の佐野天明鋳物師（さのてんみょういもじ）による半鐘もある。

【関連題材】 勝軍地藏尊（番号79）

●ふるさと歩道案内板「地藏院」



地藏院

【番号】 39 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 しょうふくぼう  
正福坊 場所／字宮東

西光院の末寺。本尊には、阿弥陀如来を祀る。  
境内には、江戸時代、延享元年（1744年）の庚申塔をはじめとする石造物もある。



正福坊

【番号】 40 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 じんがぼう  
神外坊 場所／字中

新義真言宗の寺。西光院の末寺で、本尊は不動明王を祀る。近くに西光院の西側の総門があったといわれている。江戸時代には、西神外（にしじんが）と呼ばれ、江戸時代後期の西光院の図面には、総門跡に榎（えのき）の木が2本あったことが記されている。



神外坊



【番号】 41 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 いちあんぼう  
一庵坊 場所／百間6丁目

江戸時代の元禄年中（1688年～1704年）に当地の有力者であった深井氏により建立されたもので、開山した一庵法師の名前をとって名付けられたと伝えられる。本尊は地藏菩薩。

隣接する川島庚申塔群には、町内で最も古い、延宝4年（1676年）の庚申塔が残されている。

【関連題材】 川島庚申塔群（番号52）

●文化財案内板「一庵坊と庚申塔」

一庵坊



【番号】 42 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 しょうれんいん  
青蓮院 場所／字中島

新義真言宗の寺。西光院の末寺で、若宮山と称する。もともとは観音堂であったものを島村氏が寺としたと伝えられる。

江戸時代には寺子屋が置かれ、明治時代には、百間小学校の若宮青蓮院分教場として大正6年（1917年）まで使用された。

青蓮院



【番号】 43 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 ちょうふくじ  
長福寺 場所／大字須賀

曹洞宗の寺。白岡市の興善寺の末寺で、桃源山と称し、本尊は聖観音を祀る。江戸時代初期の開山と伝えられる。

●文化財案内板「長福寺」

長福寺



【番号】 44 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 だいしょういん  
大聖院 場所／大字東条原

新義真言宗の寺。かつては、西光院の末寺で、明王山と称し、本尊は不動明王を祀っていた。

明治6年（1873年）に廃寺となった後は、須賀小学校の前身である西條学校（条原小学校）が置かれ、現在の場所に移転する大正5年まで使用されていた。建物は、大正8年に久喜市の香最寺に移築され、平成20年まで残っていた。新四国八十八ヶ所霊場の第70番。

【関連題材】 須賀小学校（番号127）

大聖院





【番号】 45 【分野】 歴史・文化財／寺社

【名前】 じそどう  
地蔵堂 場所／大字東桑原

本尊を郷地蔵（さとじそ）と言ひ、子育て地蔵とも称されている。元々は、大聖院のお堂の一つであった。7月24日の祭礼は、「地蔵様の灯籠（とうろう）」と呼ばれ、堂の前の道に、絵を描いた灯籠が並べられ、堂内では、ロウソクがたくさん立てられる。この短くなったロウソクは半紙に包まれ、安産のお守りとして参拝者に配られる。

地蔵堂



【番号】 46 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 さいこういんあみださんぞんぞう  
西光院 阿弥陀三尊像 場所／字東（東京国立博物館保管）

国指定重要文化財。平安時代末期、安元2年（1176年）に造られた阿弥陀如来坐像、観音菩薩立像、勢至菩薩立像からなる三尊像（阿弥陀三尊像）。全体的に穏やかでふくよかな丸みのある肉厚な形は、いわゆる定朝様式（じょうちょうようしき）と呼ばれる平安時代の特徴的な仏像。大正3年（1914年）に国の重要文化財（当時は国宝）に指定されている。

【関連題材】 西光院（番号27）ほか

阿弥陀三尊像



【番号】 47 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 さいこういんとくがわいえやすぞう  
西光院 徳川家康画像 場所／字東

町指定文化財。西光院は、徳川将軍家から50石の朱印地を拝領しており、歴代の将軍から発給された12通の朱印状が残されている。徳川家康画像は、もともと院内の東照宮の御神像だったもので、埼玉県でも数点しか確認されていない貴重なもの。葵紋が描かれた栗田口焼茶碗等とともに、3代将軍徳川家光の時代に拝領したものと伝わる。

【関連題材】 西光院（番号27）ほか

徳川家康画像



栗田口焼茶碗

【番号】 48 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 えんくうぶつ  
円空仏 場所／大字和戸ほか

町指定文化財。江戸時代の僧「円空」は、寛永9年（1632年）に美濃国（現在の岐阜県）に生まれ、生涯に十二万体の造仏を祈願し、仏像を刻みながら全国を巡り歩いたといわれており、現在までに確認されている円空仏は、4,500体以上を数える。宮代町内では、和戸地区の御成街道沿いを中心に12体が確認されている。

円空仏  
（役行者倚像）





【番号】 49 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 ひめみやじんじゃえま  
姫宮神社絵馬 場所／字姫宮

町指定文化財。姫宮神社には、江戸時代の中頃から近現代までに奉納された参詣や祈りの絵馬等 44 点が残されている。

このうち、江戸時代、文化 12 年（1815 年）「熊野詣（くまのもうで）（西国三十三ヶ所巡り）」の記念に奉納された、縦 102 cm、横 151 cm の大型の絵馬等 3 点が町指定文化財になっている。

【関連題材】 姫宮神社（番号 8）



熊野詣

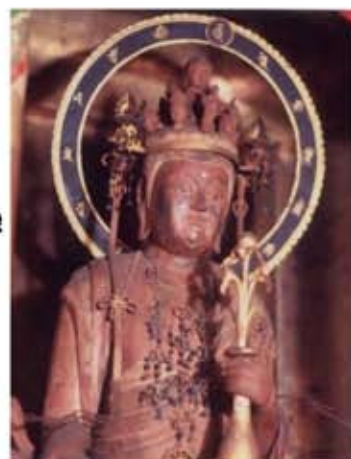
【番号】 50 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 さいほういんじゅういちめんかんのんぞう  
西方院十一面観音像 場所／大字和戸

町指定文化財。西方院にある室町時代の作と推定される仏像。現在の幸手市付近を拠点としていた豪族、幸手一色氏により寄進されたものと伝えられる。もともとは、近くにあった観音堂の本尊であったが、明治時代初期に観音堂が廃寺になった時に西方院に移された。25 年に一度開帳される秘仏で、古くから子育て観音として人々の信仰を集めている。

なお、観音堂には、明治 7 年から明治 19 年まで和戸学校（須賀小学校の前身の一つ）が置かれていた。

【関連題材】 西方院（番号 33）



十一面観音像

【番号】 51 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 じそういんあみだによらいざぞう  
地藏院 阿弥陀如来坐像 場所／字西原（郷土資料館保管）

町指定文化財。西原の地藏院に伝えられていた仏像。平安時代末の定朝様式による如来像の特徴を示しており、西光院の阿弥陀三尊像よりやや遅い、平安時代末期～鎌倉時代初期に造られたものと推定される。

後世に大幅な修復が施されているが、埼玉県東部に残る古い仏像の一つとして貴重なもの。

【関連題材】 地藏院（番号 38）



阿弥陀如来坐像

【番号】 52 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 かわしまこうしんとうぐん  
川島庚申塔群 場所／百間 6 丁目

町指定文化財。庚申塔（こうしんとう）は、平安時代からはじまり、江戸時代に庶民の間に広まった「庚申信仰」により建てられた石造物。町内では、110 基余り確認されており、川島の一庵坊の裏手の道路沿いには、町内で最も古い延宝 4 年（1676 年）に建てられたものをはじめとした多数の庚申塔等が立ち並んでいる。

【関連題材】 一庵坊（番号 41） ●文化財案内板「一庵坊と庚申塔」



川島庚申塔群



【番号】 53 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 みち  
道しるべ 場所／町内各所

道の行先を示した道案内で、道端にある庚申塔や地藏などに刻まれることが多い。

町内には、享保17年(1732年)～明治8年(1875年)の期間に建てられた合計24基が確認されている。明治8年に建てられた学園台道しるべには、「東 東京 かすかへ(春日部)…」 「西南 しのか(篠津) しらか(白岡)…」 「西北 さって(幸手) くき(久喜)…」と刻まれている。

●文化財案内板「学園台道しるべ」



学園台道しるべ

【番号】 54 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 いたいしとうば  
板石塔婆 場所／町内各所

鎌倉時代～室町時代、戦国時代に流行した供養塔(くようとう)の一種。

秩父産の緑泥片岩(りよくていへんがん)という平らな石を加工して造られたもので「青石塔婆(あおいしとうば)」「板碑(いたび)」とも呼ばれる。

宮代町域では、寺院の境内等から約200基が確認されている。



宮代町最大の板石塔婆 (小島氏所蔵)

【番号】 55 【分野】 歴史・文化財／文化財

【名前】 とうぶてつどうれんがきょうだい  
東武鉄道煉瓦橋台 場所／和戸ほか

明治31年(1898年)に着工した東武鉄道の北千住～久喜間の工事では、河川等に煉瓦橋台が造られ、現在も使用され続けている。宮代町では、備前堀川、備前前堀川、姥ヶ谷落堀、鹿沼用水の支流、笠原沼落川で残っており、平成27年に取り壊された姫宮落川の橋台の一部が郷土資料館で展示されている。この煉瓦は、渋沢栄一が設立した日本煉瓦製造の深谷工場で製造されたもので、大正3年に建築された東京駅の煉瓦も同じ工場で作られたもの。



備前堀川橋台

【番号】 56 【分野】 歴史・文化財／歴史

【名前】 わどきりすときょうかい  
和戸キリスト教会 場所／和戸3丁目

埼玉県内最初のキリスト教会として、明治11年(1878年)に誕生。創設者の一人、和戸村の小島九右衛門は、仕事で横浜に出向いた際にヘボン博士と出会ったことをきっかけに、キリスト教の洗礼を受けた。初代の教会堂は、小島と同時代に洗礼を受けた大工、小菅幸之助により明治15年に建設されたもので、現在の和戸交差点付近にあった。現教会堂は、平成12年に建てられた3代目の建物。

【関連題材】 小島九右衛門(番号73) ●文化財案内板「和戸キリスト教会」



明治期(初代)の教会堂



【番号】 57 【分野】 歴史・文化財／歴史

【名前】 かまくらかいどうなかつみち  
鎌倉街道中道 場所／大字東条原ほか

鎌倉時代、幕府の御家人たちが鎌倉に馳せ参じるため等に使われていた各地と鎌倉を結ぶ道筋。

宮代町域を通過する中道（なかつみち）は、江戸時代の日光街道の成立まで奥州方面に通じる主要道として機能していた。東条原から須賀の真蔵院前を抜け、現在の万願寺橋付近で、当時高野川と呼ばれていた古利根川を渡り、下高野、幸手、古河方面に通じていた。

●文化財案内板「真蔵院・鎌倉街道」



東条原宿屋敷付近

【番号】 58 【分野】 歴史・文化財／歴史

【名前】 にっこうおなりみち  
日光御成道 場所／大字国納ほか

徳川家康を祀った日光東照宮に将軍が参詣（さんけい）のため使用された道。町域では、西条原村、国納村、和戸村を通過する。将軍の日光社参は、第2代将軍秀忠を初めとして、全19回行われ、天保14年（1843年）第12代将軍家慶の日光社参の途中に、西条原鷲宮神社で休憩した記録が残されている。

【関連題材】 西条原鷲宮神社（番号16）

●文化財案内板「西条原鷲宮神社・御成道」



西条原鷲宮神社付近

【番号】 59 【分野】 歴史・文化財／歴史

【名前】 わどえき とうぶどうぶつこうえんえき ひめみやえき  
和戸駅 東武動物公園駅 姫宮駅

明治32年（1899年）8月、北千住－久喜間が開業し、杉戸駅（現・東武動物公園駅）を含む7駅が設置され、同年12月には、和戸駅を含む4駅が開設された。和戸駅は、大正8年に貨物取扱が増えたため現在地に移転している。姫宮駅は、昭和2年（1927年）に開設され、杉戸駅は、昭和56年の東武動物公園の開園に伴い東武動物公園駅に改称された。



杉戸駅

【番号】 60 【分野】 歴史・文化財／歴史

【名前】 まんねんせき  
万年堰（碑） 場所／大字和戸、大字国納

和戸・国納地区の水田の農業用水確保のために村の有志によって備前前堀川に設けられた堰（せき）。

明治35年（1902年）に煉瓦造りの堰が建設され、御影石と煉瓦を使用した近代的な構造の堰として長年親しまれたが、昭和54年（1979年）に現在の堰を建設する時に取り壊された。由来を記した石碑の文は、小説家中島敦の叔父中島竈（しょう）によるもの。

●文化財案内板「万年堰」



万年堰碑

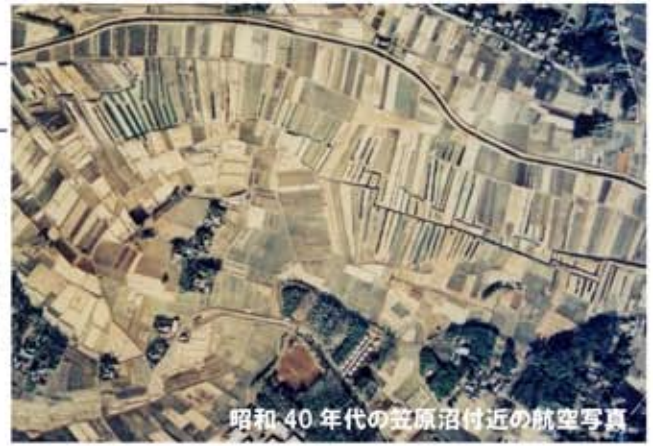


【番号】 61 【分野】 歴史・文化財／歴史

【名前】 かさほらぬま  
笠原沼・ホッツケ 場所／字百間ほか

寛永2年(1625年)に大河内金兵衛久綱により下流域への用水確保のため造成され、享保14年(1729年)に井沢弥惣兵衛為永(いざわやそうべえためなが)により新田開発された。沼の泥を掘り上げて短冊形に造られた田んぼは「掘上田」、堀は「ホッツケ」と呼ばれる。昭和50年代に東武動物公園や笠原小学校の造成のため大半が消滅したが、その一部が「新しい村」に残り、復元整備されている。

【関連題材】 新しい村(番号121) ●文化財案内板「笠原沼」



昭和40年代の笠原沼付近の航空写真

【番号】 62 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 しまむらしげる  
島村繁

武道家、政治家。明治27年(1894年)、字中の邸内に直心影流道場「遵養館(じゅんようかん)」を設け剣術を広めた。

明治39年から明治44年に亡くなるまで百間村長を務め、道路の修繕や百間小学校を現在の地に建設するなど、行政、教育に尽力した。その高德を称える石碑が邸宅の門前にある。

【関連題材】 島村鬼吉(番号65)、島村盛助(番号69)



島村繁の碑

【番号】 63 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 やべみきのじょう  
矢部造酒之丞

嘉永5年(1852年)～大正12年(1923年)。福沢諭吉の門下生として学び、明治初年に西条原の自宅に漢学塾「寧俟義塾(ねいけんぎじゅく)」を開設した。

矢部家の門前には、酒造之丞が古希(こき: 数え年で70歳)を迎えた大正10年に門下生によって建立された高さ3m余り(台座含む)の寿蔵碑がある。

●文化財案内板「寧俟義塾跡」



矢部造酒之丞

寿蔵碑

【番号】 64 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 おばなぜんてい  
尾花善貞

?～明治元年(1868年)。川島(百間6丁目)の私塾(寺子屋)の師匠。文政年中(1819年頃)から近郷の人々に学問を教えていた。

かつて、川島の尾花家の庭先にあった「菅聖公(かんせいこう)」と記された石碑(現在は宮代町郷土資料館に移設)の裏面に、善貞の事績が記されている。



菅聖公碑



【番号】 65 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 しまむらききつ  
島村鬼吉

江戸時代の俳人。天明5年（1785年）～安政2年（1855年）。百間中村の名主で、通称「新右衛門」。松尾芭蕉の流れをくむ俳諧結社の「多少庵」を、江戸深川から百間に移し、以降、埼玉県北東部の俳諧の中心地として明治末期まで代々引き継がれた。

【関連題材】 島村繁（番号62）、島村盛助（番号69）  
【町指定文化財】 多少庵俳額（五社神社）



巨暮帳にみられる  
島村鬼吉の句  
(新井家文書)

【番号】 66 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 なかのなんし  
中野南枝

江戸時代の俳人。不明～文政5年（1822年）。百間東村の人。松尾芭蕉の流れをくむ俳諧結社「多少庵」の第一世の鈴木秋瓜（すずきしゅうか）に俳句を学び、春暁亭連溪庵と号した。死後、同郷で親交の深かった島村鬼吉から多少庵第三世を追贈された。東の五社神社には、南枝の4つの句が刻まれた句碑（文政3年建立）がある。

【関連題材】 島村鬼吉（番号65）  
【町指定文化財】 多少庵句碑（五社神社）、  
多少庵俳額（五社神社・姫宮神社）



中野南枝の句碑  
(五社神社)

【番号】 67 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 にちよ  
日誉

弘治2年（1556年）～寛永17年（1640年）。15歳の時、西光院の中興開山第1世の日雄（にちおう）の弟子となり、その後、徳川家康の信任を受け、京都の智積院（新義真言宗智山派総本山）の第3世（住職）として新義真言宗の基礎を築いた僧侶。

【関連題材】 西光院（番号27）

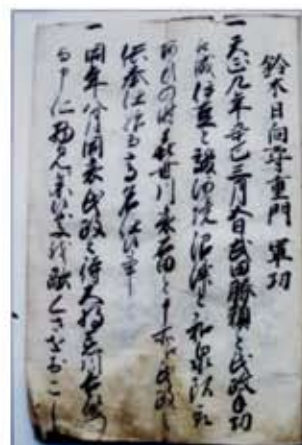


日誉の墓  
(京都市智積院)

【番号】 68 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 すずきうたのすけ  
鈴木雅楽助

生没年不詳。戦国時代末期、東地内にいた土豪で小田原の北条氏、岩槻城主に仕えた。元龜3年（1572年）の古文書によると、その知行地は「百間の8貫250文」で、軍役は「皮笠を被り2間半の槍を持った足軽侍1人と、馬上で甲冑を身に付け旗指物を背負った武将1人（1騎）」と記されており、この馬上1騎というのが鈴木雅楽助であると考えられる。



鈴木氏由緒書  
(鈴木氏所蔵)



【番号】 69 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 しまむらもりすけ  
島村盛助

明治 17 年（1884 年）～昭和 27 年（1952 年）。  
英文学者。作家。東京帝国大学英文科を卒業後、埼玉中  
学校（不動岡高校）等の教諭を経て、大正 9 年から昭和  
19 年まで旧制山形高等学校（山形大学）の英語科教授  
として勤務。同僚の田中菊雄らとともに英和辞典の編集  
を行い、昭和 11 年に岩波書店初の英和辞典として出版  
された。

【関連題材】 島村繁（番号 62）、島村鬼吉（番号 65）



島村盛助

【番号】 70 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 おりはらせいいてい  
折原静汀

明治 30 年（1897 年）～昭和 9 年（1934 年）。歌人。  
政治家。本名「源太郎」。百間村大字百間金谷原組に生  
まれ、大正 5 年に前田夕暮の「白日社」に入社し『詩歌』  
に作品を発表した。大正 6 年には、短歌結社「嬰兒詩社」  
を設立し、歌誌『嬰兒』を創刊する。  
昭和 4 年（1929 年）、33 歳で百間村村長となり行政  
手腕を発揮した。



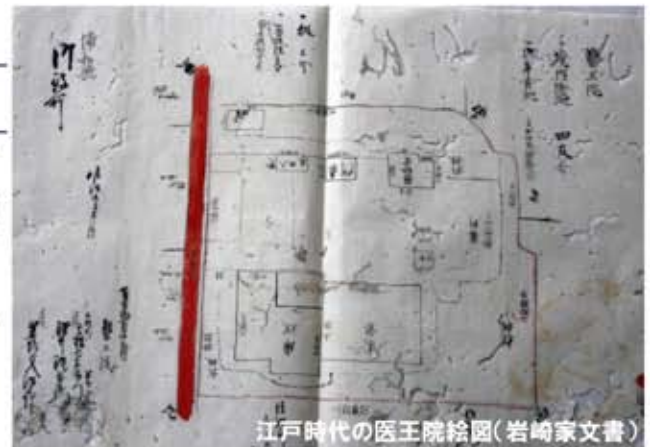
折原静汀

【番号】 71 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 しまむらでわむねあき  
島村出羽宗明

?～寛永元年（1624 年）。道仏の医王院を造立し、百  
間中島村の開発にあたった。祖父である島村弾正左衛門高  
智は、室町幕府の管領細川高国の家臣で、父入道道明の  
時に東国に下り当地に移ったという。  
道明の子孫は、代々百間中村の名主をつとめた。島村鬼  
吉、島村繁、島村盛助は、その子孫である。

【関連題材】 医王院（番号 29）



江戸時代の医王院絵図(岩崎家文書)

【番号】 72 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 はっとりごんだゆうまさすえ  
服部権太夫政季

文禄元年（1592 年）、徳川家康の江戸入府に伴い、家  
臣である服部与十郎政季に太田荘百間郷 3 千石が与え  
られた。与十郎政季は、後に権太夫政季となり、嫡子の  
権太夫政信の時、大阪夏の陣の戦功により遠江国浜松付  
近の敷智郡に転封となり、百間の地を離れた。  
政季は、青林寺付近に陣屋（じんや）を築いたと伝えられ  
ていたが、平成 13 年、西原地内の県道蓮田杉戸線の拡  
幅工事で、陣屋の遺構が発見された（写真）。



旗本服部氏の陣屋跡(掘立柱建物跡)



【番号】 73 【分野】 歴史・文化財／人物

【名前】 こじまきゅうえもん  
小島九右衛門

和戸村の元名主の家で養蚕業を営んでいた。仕事で横浜に出向いた際に、胸を病みへボンの施療院で治療を受けたことをきっかけにキリスト教と出会い、明治8年（1875年）宣教師バラから洗礼を受けた。帰郷後、同じくバラから受洗した大工小菅幸之助とともに伝道活動を行い、信徒が増えたことから、明治11年、自宅を開放し埼玉県で最初のキリスト教会を設立した。

【関連題材】 和戸教会（番号56）



小島九右衛門(和戸教会所蔵)

【番号】 74 【分野】 歴史・文化財／伝説・伝承

【名前】 みやめひめのでんせつ  
宮目姫の伝説 場所／宇姫宮

姫宮神社の創立に関する伝説。  
平安時代、桓武天皇の孫の宮目姫という美しい姫が下総国に行く途中、武蔵国百間の里、紅葉ヶ岡という美しい景色の場所で、突然の病に倒れ息を引き取ってしまい、この地に埋葬された。  
その後、慈覚大師が故郷の下野国に帰る途中、姫の話を目にし、里人とともに祠を建てて供養し、姫宮明神と呼ばれると伝えられている。

【関連題材】 姫宮神社（番号8）



宮目姫の伝説

【番号】 75 【分野】 歴史・文化財／伝説・伝承

【名前】 みがわりやくし  
身代り薬師 場所／大字須賀（真蔵院）

真蔵院の薬師如来像に関する伝説。  
昔、鎌倉時代、伊藤修理大夫光重という者が、主君に逆らったという無実の罪のために首をはねられた。その光重の首を主君のいる鎌倉に運ぶ途中、須賀に来た時に首が急に重くなった。確かめてみると、首が薬師如来の首にすり替わっており、光重も傷一つ受けていなかった。この薬師如来を祀ったのが「身代り薬師」である。

【関連題材】 真蔵院（番号32）



身代り薬師

【番号】 76 【分野】 歴史・文化財／伝説・伝承

【名前】 やおびくに  
八百比丘尼 場所／字中、字逆井

中地内には、八百比丘尼を祀ったお堂があったといわれており、その周囲の字を尼沼（あまぬま）という。また、逆井にも八百比丘尼の伝説が残されている。八百比丘尼は、人魚の肉を食べて八百歳まで長生きしたといわれている。



八百比丘尼



【番号】 77 【分野】 歴史・文化財／伝説・伝承

【名前】 おいてけぼり  
おいてけ堀 場所／学園台（身代神社）

身代神社の池は魚が多く、釣りをすると非常によく釣れた。しかし、釣りを終えて魚を持ち帰ろうとすると、池の中から「オイテケ、オイテケ」という声がするので、誰もが恐ろしくなり魚を置いて帰った。  
もし、魚を持ち帰って食べると、その人の家は落ちぶれてしまい村に居られなくなってしまうといい伝えられていたので、誰もその魚を食べる人はいなかった。  
【関連題材】 身代神社（番号 14）



【番号】 78 【分野】 歴史・文化財／伝説・伝承

【名前】 ぶっさりじぞう  
ぶっさり地蔵 場所／大字西条原（宝光寺）

宝光寺にある地蔵尊に関する伝承。  
昔、近郷在住の若者が杉戸宿に遊びに行った帰りの夜道、宝光寺の近くまで来たときに、肩に若い娘がおぶさってきた。暗くて顔も見えなかったので、そのまま背負って歩き、我が家も近づいてきたので、どんな娘かと思い振り向いて見てみると、娘ではなく地蔵尊がおぶさっていた。  
慌てて問いただしてみると、宝光寺の地蔵尊と答えたという。  
【関連題材】 宝光寺（番号 35）



【番号】 79 【分野】 歴史・文化財／伝説・伝承

【名前】 しょうぐんじぞうそん  
勝軍地蔵尊 場所／字西原（地蔵院）

地蔵院に祀られている「勝軍地蔵尊」に関する伝承。  
勝軍地蔵尊は馬にまたがっていて、火伏せの神様として信仰されている。  
あるとき、耕地内の民家が火事になったときに、白い馬が駆けめぐり火を消した。このとき勝軍地蔵尊も白馬にまたがり、よく見ると赤い汗をかいていたという。  
【関連題材】 地蔵院（番号 38）



【番号】 80 【分野】 歴史・文化財／伝説・伝承

【名前】 によたいぐう  
女躰宮 場所／中央1丁目

京都で学問を教えていた蓮谷（本田3丁目）の鈴木家の先祖の男が、貴族の三条家の姫君と恋仲になったが、身分の違いから結ばれることはないと感じ、ある日突然蓮谷に戻ってしまった。  
姫君は、男を慕い京都から追いかけてきたが、途中何者かに襲われたことを苦にして、鈴木家の近くの池に身を投げてしまった。哀れに思った付近の人達が、池のほとりに女躰宮を祀り姫の霊を弔った。





【番号】 81 【分野】 歴史・文化財／伝統行事

【名前】 ひがしくめはらわしみやじんじゃのししまい  
東条原鷺宮神社の獅子舞 場所／大字東条原

町指定文化財。東条原鷺宮神社に、江戸時代の延享2年（1745年）頃から伝えられている獅子舞。

その由来は、当時、古利根川が氾濫し作物が取れず疫病も流行した際に、その原因が新田開発により当地の神々の怒りを招いたことにあるとして、獅子舞を習い奉納したことが始まりと伝えられている。

【関連題材】 東条原鷺宮神社（番号15）

●文化財案内板「東条原鷺宮神社」



東条原鷺宮神社の獅子舞

【番号】 82 【分野】 歴史・文化財／伝統行事

【名前】 さいこういん みえく  
西光院 御影供 場所／字東

西光院は、御影供寺（みえくでら）としても知られている。御影供とは、通称「みいく」ともいい、毎年4月21日、弘法大師空海の法要のために行われる行事。かつては、新嫁は花嫁姿でお参りし、境内には多くの露店が立ち並び参詣の人々で賑わった。

【関連題材】 西光院（番号27）



西光院の御影供

【番号】 83 【分野】 歴史・文化財／伝統行事

【名前】 ごしゃじんじゃ みかん投げ  
五社神社 みかん投げ 場所／字東

五社神社で、毎年2月14日の夜に行われる節分（あるいは年越し）行事。

この年の厄年の人達により奉納されたみかんを集めた人達に向かって投げるもので、このみかんを食べると風邪を引かないと言われている。

また、昔はみかんではなく落花生を、さらに以前は、豆を投げていたという。

【関連題材】 五社神社（番号9）



五社神社 みかん投げ

【番号】 84 【分野】 歴史・文化財／伝統行事

【名前】 せんげんじんじゃのはつやま  
浅間神社の初山 場所／和戸ほか

生まれて初めて迎える7月1日を初山（はつやま）といい、近くの浅間神社に参る。

この日は富士山の山開きの日であり、富士山を模してつくられた浅間神社の築山（富士塚）に登り、お参りすると丈夫な子に育つといわれている。

町内では、山崎の赤松浅間神社、和戸の浅間神社、辰新田の浅間神社などで初山行事が行われている。

【関連題材】 赤松浅間神社、和戸浅間神社、辰新田浅間神社



初山(和戸浅間神社)



初山のうちわ(昭和25年頃)



【番号】 85 【分野】 歴史・文化財／伝統行事

【名前】 おししさま 場所／字東ほか

獅子と天狗が無病息災(むびょうそくさい)を願って、家々を一軒ずつ回る行事。  
現在は、東、姫宮、前原、八河内で行われている。  
かつては、松の木島、西原、山崎、宿、逆井等で行われていた。



おししさま(松の木島)

【番号】 86 【分野】 歴史・文化財／その他

【名前】 もんまりょう  
百間領

江戸時代、百間村を中心とした地域は、武州埼玉郡百間領(ぶしゅうさいたまぐんもんまりょう)と呼ばれていた。現在の宮代、白岡、久喜、春日部にまたがる27か村がその領内で、天領や旗本領がそのほとんどであった。  
北から、吉羽村、和戸村、上野田村、爪田谷村、百間村、太田新井村、太田袋村、徳力村、内牧村、梅田村、新方袋村等が属していた。



江戸時代の百間領と周辺の村(折原家文書)

【番号】 87 【分野】 歴史・文化財／その他

【名前】 すかごう  
須賀郷

須賀の地名が最初に確認できるのは、鎌倉幕府の正史「吾妻鏡」で、元久元年(1204年)、須賀の地頭が鎌倉法華堂の重宝を盗んだ盗賊を捕えたと記されている。鎌倉時代から室町時代、須賀郷は、上須賀郷と下須賀郷に分かれており、上須賀郷は、室町時代の永徳2年(1382年)まで小山氏の所領、その後応永2年(1395年)まで安保氏の所領であった。



江戸時代の百間村・須賀村絵図(岩崎家文書)

【番号】 88 【分野】 歴史・文化財／その他

【名前】 すか・くめはらのいち  
須賀・久米原の市 場所／大字東桑原ほか

室町時代、延文6年(1361年)の「市場之祭文(いちばのさいもん)」という市を開く際に修験者が神社で読み上げた祭文に、久米原市と須賀市の名称が確認できる。いずれも鎌倉街道沿いの、久米原市は東桑原鷺宮神社付近、須賀市は真蔵院付近にあったものと推定される。

【関連題材】 東桑原鷺宮神社(番号15)、真蔵院(番号32)、須賀郷(番号87)



市場之祭文に見える地名(須賀、久米原)



【番号】 89 【分野】 歴史・文化財／その他

【名前】 げんだやま  
源太山 場所／字山崎

百間本村の名主であった松永源太左衛門の屋敷があった付近は「源太山」と呼ばれている。この地区からは、室町時代の遺物も出土している。

江戸時代の絵図によると、江戸時代前期は「後宿」、中期には「源太宿」と呼ばれていたようである。

百間村絵図の源太山周辺(右図)で、ひときわ大きく描かれている屋敷が名主の松永源太左衛門宅である。

【関連題材】 神明神社 (番号 19)



江戸時代の源太宿周辺の絵図(折原家文書)

【番号】 90 【分野】 歴史・文化財／その他

【名前】 えすえる40ごう  
SL40号 場所／笠原1丁目(スキップ広場)

役場庁舎の横に展示されている蒸気機関車。

明治31年(1898年)にイギリスで製造され、大正11年(1922年)から昭和41年(1966年)までの44年間、東武鉄道で活躍していた。その後、縁あって平成6年(1994年)に現在地に展示された。なお、東武鉄道杉戸工場(現・東武動物公園駅西口広場)は、主に貨物用の蒸気機関車を整備していた工場で、現在の西口広場にはレール等のモニュメントが残されている。



SL40号

【番号】 91 【分野】 歴史・文化財／その他

【名前】 どんぐりピアノ 場所／大字須賀(須賀小学校)

昭和24年(1949年)、須賀小学校の子供達は、憧れのピアノを自分達の手で購入しようと奮起し、どんぐりや栽培したヒマワリの種、捕まえたイナゴ等を売ってお金を集めた。足りない分を保護者と地域の人々が援助し、昭和25年、近隣の他の学校よりも早くピアノを購入することができた。毎年秋の「校内音楽会」は、この時に地域の人々への感謝を伝えるために開かれたのが始まりである。



どんぐりピアノ (道徳教材)

【番号】 92 【分野】 自然・地理／河川

【名前】 ふるとねがわ  
古利根川

かつて利根川の本流であり、武蔵国と下総国とを分けた川。また、鎌倉・室町時代、須賀付近の流れを「高野川(たかのがわ)」といい、渡しがあった。鎌倉時代末期には、橋がかけられており、江戸時代にその橋杭が発見され、臼(うす)にしたという話が伝わっている。

【関連題材】 鎌倉街道中道 (番号 57)



古利根川(和戸4丁目付近)



【番号】 93 【分野】 自然・地理／河川

【名前】 ひめみやおとしがわ  
姫宮落川

江戸時代初期の笠原沼の造成の際に、もともとあった川筋を再整備し、下流域の新田開発に利用された川。江戸時代初期から中期にかけて、道仏地区にあった道仏堰をめくり、笠原沼周囲の村（須賀村や蓮谷村等）と下流域の村（百間村等）とで水争いが絶えなかった。



姫宮落川(東桑原付近)

自然・地理

【番号】 94 【分野】 自然・地理／河川

【名前】 はやとほりがわ  
隼人堀川

白岡市の寺塚から小久喜、上野田、下野田、岡泉、太田新井を通して宮代町に入り、春日部市とのほぼ境を流れ、川端で大落古利根川に合流する。江戸時代中期の絵図には、備中堀と記されている。



隼人堀川(金原付近)

【番号】 95 【分野】 自然・地理／河川

【名前】 びぜんほりがわ  
備前堀川

加須市の外田谷・久喜市の所久喜・江面・太田袋を通り、国納そして和戸で古利根川と合流する。江戸時代の初め、伊奈備前守（いなびぜんのかみ）によって開削されたので備前堀といわれている。元々は、現在の久喜菖蒲工業団地にあった河原井沼から古利根川へ流れる落堀であった。流末には、江戸時代中期まで堰があり、中須用水とつながっていた。



備前堀川(国納付近)

【番号】 96 【分野】 自然・地理／河川

【名前】 かさはらぬまおとしがわ  
笠原沼落川

江戸時代中期、笠原沼新田の開発の際に、排水のために作られた落とし堀。笠原沼新田内の笠原沼落川は、中水道とも呼ばれる。横手堤の所には、石橋の堰があり、この堰を締めることで笠原沼新田に水を供給していた。



笠原沼落川  
(百間、山崎付近)

【関連題材】 笠原沼・ホツツケ (番号61)



【番号】 97 【分野】 自然・地理／自然

【名前】 ほうしょういん おおいちょう  
宝生院の大イチョウ 場所／字中

町指定文化財。字中の宝生院の境内にある大木。  
樹齢 500 年余りと推定される。

【関連題材】 宝生院 (番号 28)



宝生院の大イチョウ

【番号】 98 【分野】 自然・地理／自然

【名前】 ひめみやおとしがわのさくら  
姫宮落川の桜 場所／字百間ほか

姫宮落川の土手の桜並木は、戦後青年団の手によって植  
えられたといわれている。

笠原小学校前の桜並木の下では、平成7年から桜市が開  
催され、町内の商店等の屋台が並び多くの町民で賑わっ  
ている。

【関連題材】 桜市 (番号 103)



姫宮落川の桜

【番号】 99 【分野】 自然・地理／自然

【名前】 やまざきやまそうきばやし  
山崎山雑木林 場所／字山崎

平成 12 年にさいたま緑のトラスト保全5号地に指定。  
大宮台地と低地が接する位置にある、コナラ・クヌギ・  
シデを中心とする雑木林。

新しい村に隣接する約 1.4ha のエリアには、遊歩道が  
整備され、雑木林を構成する様々な植物、野鳥、昆虫等  
を観察することができる。地元の自然保護団体等による  
保全活動や自然観察会等が行われている。

【関連題材】 新しい村 (番号 122)



山崎山雑木林

【番号】 100 【分野】 まちづくり／行事

【名前】 ちょうみんまつり  
町民まつり

毎年8月下旬に開催される。進修館を中心に、駅前通り  
での流し踊り、神輿の渡御等が行われる。道路沿いには  
露店も出て、多くの町民で賑わう。



流し踊り



神輿渡御



【番号】 101 【分野】 まちづくり／行事

【名前】 ちょうみんたいいくさい  
町民体育祭

毎年10月、総合運動公園を会場に開催されている。昭和48年（1973年）の第1回大会から40年以上続く町民のスポーツの祭典。玉入れなどの地区ごとに参加する「地区対抗種目」と買い物競争などの「一般種目」がある。



町民体育祭



【番号】 102 【分野】 まちづくり／行事

【名前】 ちょうみんぶんかさい  
町民文化祭

毎年11月の文化の日前後の数日間、コミュニティセンター進修館を会場に開催されている。昭和54年（1979年）の第1回開催以来、35年以上続く、町民の文化の祭典。絵画や書道、彫刻などの作品展示をはじめ、歌や踊りなどの舞台発表にも多くの町民が参加し、町民の文化活動の発表と交流の場として毎年賑わいを見せている。



町民文化祭



【番号】 103 【分野】 まちづくり／行事

【名前】 さくらいち  
桜市

毎年、桜の咲く頃に、笠原小学校前の姫宮落川の桜並木で開催されるイベント。平成7年4月に農のあるまちづくりの取り組みの一環としてスタートし、町内の商店等の屋台が並び多くの町民で賑わっている。



桜市



【番号】 104 【分野】 まちづくり／行事

【名前】 みやしろう  
クリーン宮代

郷土に残されている豊かな自然を守り、美しく住みよい環境を作ることを目的に、宮代町コミュニティ協議会が毎年5月末に実施している町内一斉美化運動。



クリーン宮代



【番号】 105 【分野】 まちづくり／行事

【名前】 みやしろイルミネーション

平成 17 年（2005 年）にスタートした、町民による手づくりのイルミネーションイベント。進修館周辺の広場や道路などに、様々な色や形の電球を飾り付け、冬の街並みを明るく、あたたかく照らし出している。イベントを運営する実行委員会は、地元大学生などの若者を中心とするメンバーが活躍している。



みやしろイルミネーション

【番号】 106 【分野】 まちづくり／行事

【名前】 キャンドルナイト

進修館四季の丘で開催される冬の風物詩・イベント。人と人のつながりの大切さを考えるきっかけとなることを目的に、NPO法人「じりつ」が中心となって平成 17 年（2005 年）から続けられている。町内の幼稚園や保育園、小中学生、地域住民が描いた約 3 千個の紙コップキャンドルと色とりどりのキャンドルを灯し、一晩限りの幻想的な風景をつくり出している。



キャンドルナイト

【番号】 107 【分野】 まちづくり／その他

【名前】 みやしろまちのめいししょう  
宮代町の名称

宮代町は、昭和 30 年 7 月 20 日に百間村と須賀村が合併して誕生した。町名は、それぞれの鎮守である姫宮神社の「宮」と身代神社の「代」をとって名付けられたもの。



姫宮神社



身代神社

【番号】 108 【分野】 まちづくり／その他

【名前】 まちのき  
町の木 シイガシ

町の木。椎の木の別称で、ブナ科の常緑高木。秋にはたくさんのドングリの実をつける。昭和 60 年に町制施行 30 周年を記念して制定された。



町の木 シイガシ



【番号】 109 【分野】 まちづくり／その他

【名前】 まちのはな  
町の花 ハクモクレン

町の花。モクレン科の落葉高木。  
白く美しい花は、清浄で高貴なイメージがある。昭和  
60年に町制施行 30周年を記念して制定された。



町の花 ハクモクレン

【番号】 110 【分野】 まちづくり／その他

【名前】 みやしろまちのうた・みやしろおんど  
宮代の歌・宮代音頭

ともに、昭和 60 年、町制施行 30 周年記念として作ら  
れた。宮代の歌は、自然豊かな町の風景が、色彩と情緒  
あふれる歌詞として綴られ、明るく優しい雰囲気メロ  
ディーに仕上がっている。

宮代音頭は、演歌歌手の山本譲二さんの歌声にのせて、  
3つの鉄道駅や進修館、巨峰など町のシンボルが数多く  
登場する。様々な町の行事で踊られ、世代を問わず、多  
くの町民から親しまれている。



宮代の歌  
宮代音頭  
レコード  
ジャケット

【番号】 111 【分野】 まちづくり／その他

【名前】 しんみやしろのうた くものはてに  
新宮代の歌『雲の果てに』

平成 27 年、町制施行 60 周年を記念し作られた町の公  
式歌。500 人を超える町民から歌詞の題材のアンケ  
ートを行いながら、宮代在住の音楽家、戸田泰宏さんが中  
心となって誕生した。

「町の未来に、夢、希望、元気を与える歌」が曲のコン  
セプト。公式音源には、町の小中学生からなる少年少女  
コーラス隊が出演している。



少年少女コーラス隊

【番号】 112 【分野】 まちづくり／その他

【名前】 みやしろせんたい  
みやしろ戦隊 ハナレンジャー

宮代町商工会青年部から生まれた宮代町のローカルヒ  
ーロー。子供たちに夢を運び、花で彩られる美しいまち  
づくりの実現のために活動している。平成 22 年 8 月  
「埼玉県ローカルヒーローズ」結成。平成 26 年 4 月「宮  
代町応援ヒーロー」に任命。





【番号】 113 【分野】 まちづくり／その他

【名前】 のうのあるまちづくり  
農のあるまちづくり

田畑や屋敷林等の「農」の景観や機能を、農家だけではなく、町に住むすべての人の財産として捉え、これを福祉や教育、環境、産業など様々なまちづくりの分野に活かしながら、地域を発展させていこうというまちづくりの考え方。

多くの町民の議論と参加の積み重ねにより町の基本政策として確立され、この推進拠点として整備されたのが新しい村である。



小学生の田植え体験

【番号】 114 【分野】 産業／特産品

【名前】 きよほう  
巨峰(ぶどう)

ぶどうの王様と呼ばれる「巨峰」は、昭和 30 年代に和戸地区の農家から生産が始まり、昭和 57 年には県内トップクラスの収穫量を誇るまでに成長した。現在でも、秋の収穫の最盛期には、町外からもたくさんのファンが巨峰を求めて訪れる。町を代表する特産品として、巨峰ワインなど様々な商品に取り入れられるとともに、実の色が町のイメージカラーとして定着するなど、町のシンボリックな存在となっている。



巨峰

みやしろ巨峰ワイン

【番号】 115 【分野】 産業／特産品

【名前】 こめ  
米

米は、町内の生産面積約 345ha（平成 27 年産）で栽培され、町の農地面積のうちおよそ半分を占めている町を代表する農産物であり、町内各地に広がる田んぼは、ふるさと宮代を象徴する風景を作り出している。平成 10 年からは、町内小中学校の学校給食にも町内産コシヒカリが使用されている。



米(稲穂)

みやしろっ子 減農薬・無化学肥料栽培コシヒカリ

【番号】 116 【分野】 施設／町施設

【名前】 しんしゅうかん  
コミュニティセンター進修館 場所/笠原 1 丁目

宮代町の自然豊かな風景に溶け込むデザインをコンセプトに、象設計集団が設計を担当。昭和 55 年オープン。習いごと、コンサート、演劇、遊び場など、町民の様々な活動の中心地として使われている、町のシンボル建築物。小ホールは、町議会の議場としても利用されている。建物前には、芝生広場「四季の丘」が整備され、地域住民の憩いの場となっている。



コミュニティセンター進修館



【番号】 117 【分野】 施設／町施設

【名前】 みやしろまちそうごうんどうこうえん  
宮代町総合運動公園 場所／大字和戸

町の北部にある総合運動施設。体育館、室内温水プール、テニスコート、野球場などある。愛称の「ぐるる」は、泳ぐ、投げる、走ると総合運動公園をイメージした3つの言葉から一文字を取ってつけられ、その愛称のとおり町民野球大会を始めとした各種大会、幼児から高齢者までの水泳教室やテニススクールなどで賑わっている。



宮代町総合運動公園

【番号】 118 【分野】 施設／町施設

【名前】 みやしろまちきょうとしりょうかん  
宮代町郷土資料館 場所／宇西原

平成5年開館。敷地内には、初代宮代町長・斎藤甲馬の生家である旧斎藤家住宅や蓮谷地区から移築された江戸時代後期に建てられたと推定される旧加藤家住宅、旧百間小学校校舎の一部であった旧進修館が復元移築されている。館内には、山崎山遺跡で発見された鍛冶工房跡の復元展示など、旧石器時代から近現代までの資料が展示されているほか、夏休み期間には数々の体験学習も催されている。



宮代町郷土資料館

【番号】 119 【分野】 施設／町施設

【名前】 みやしろちょうりつとしょかん  
宮代町立図書館 場所／宇百間

平成6年1月開館。オープン当初は、町村レベルで東日本一の規模を誇った。現在でも、町民1人当たりの蔵書数、貸出冊数ともに、県内市町村でトップクラスにある。職員だけではなく40人を超えるボランティアが様々な行事や図書の配架などに協力していることも特長。



宮代町立図書館

【番号】 120 【分野】 施設／町施設

【名前】 いえ いえ  
ひまわりの家、すだちの家 場所／宇百間

福祉作業所「ひまわりの家・すだちの家」は、心身に障がいを持った人たちが自立することをめざして生活指導・職業訓練を行っている施設。平成2年開所。



ひまわりの家

すだちの家



【番号】 121 【分野】 施設／町施設

【名前】 <sup>みやしろ</sup>  
はらっパーク宮代 場所／字金原

平成 16 年に開催された彩の国まごころ国体アーチェリー競技会場として整備された。国体開催時には全国からたくさんの選手が集い4日間の熱戦が繰り広げられた。また、平成 20 年にはインターハイも開催され、埼玉県のアーチェリー競技のメッカとなっている。3万平方メートルの広大な芝生広場は、グラウンドゴルフ、サッカーなどで利用され町民のスポーツと憩いの広場となっている。



はらっパーク宮代

アーチェリー競技

【番号】 122 【分野】 施設／町施設

【名前】 <sup>あたらしいむら</sup>  
新しい村 場所／字山崎

農のあるまちづくりの推進拠点として、平成 13 年度にオープン。地元産の新鮮野菜や特産品を販売する「森の市場結」のほか、市民農園、ハーブ園のほか、江戸時代の水田開発を今に伝えるホツケ（堀）も再現され、地元小学校の稲作体験等に活用されている。

【関連題材】 笠原沼・ホツケ (61)、  
農のあるまちづくり (113)



新しい村

【番号】 123 【分野】 施設／町施設

【名前】 <sup>こうせつみやしろふくしいりょうせんたーりっか</sup>  
公設宮代福祉医療センター六花 場所／大字須賀

医療、福祉、子育てのための機能をもつ、複合施設。町の医療と福祉の中心地として、人々の健康と子供たちの健やかな成長を支えている。平成 15 年オープン。



六花

【番号】 124 【分野】 施設／町施設

【名前】 <sup>やくばもくぞうちょうしゃ</sup>  
役場木造庁舎 場所／笠原 1 丁目

平成 17 年完成。人と自然にやさしい庁舎、誰もが使いやすい庁舎、を基本コンセプトに設計され、埼玉県産の木材を豊富に活用した全国的にも珍しい木造庁舎。また、整備にあたっては、一般町民を含む「新庁舎基本計画策定委員会」によって町民参加による基本方針が策定されたことも大きな特徴。



木造庁舎



【番号】 125 【分野】 施設／町施設

【名前】 ひだまりサロン  
陽だまりサロン 場所／笠原小学校内

笠原小学校の中に設置された、福祉交流センター。地域住民に開放され、囲碁・将棋、体操、コンサートなど、様々な活動や催しに活用され、高齢者を中心に、多くの住民に親しまれている。平成12年オープン。



陽だまりサロン

【番号】 126 【分野】 施設／町施設

【名前】 こうしゅうといれ「しきらく」  
公衆トイレ「四季楽」 場所／笠原1丁目

役場庁舎横のスキップ広場にある公衆トイレ。デザイン、サイン（案内表示）、名称をすべて公募してつくられた町民の心と知恵が集まったメイドイン宮代トイレ。国際トイレシンポジウム'96で「グッド・トイレ10」に選出された。



四季楽

【番号】 127 【分野】 施設／町施設

【名前】 すかしょうがっこう  
須賀小学校

明治6年（1873年）、西桑原の宝光寺に西條学校（後に旧大聖院に移転、桑原小学校と改称）、同7年に和戸の旧観音堂に和戸学校が開校。明治19年に統合し、大正5年、現在地に校舎を移し、須賀小学校と改称した。この際の記念木として、旧大聖院から「榎（かや）の木」を移植した。また、学校のシンボル「楓（かえで）の木」は、大正5年に明治44年度の卒業生が植えた開校記念樹。大正10年制定の校歌は、児童文学者「巖谷小波（いわやさなみ）」による作詞。作曲は、「金太郎」や「一寸法師」の作曲でも著名な「田村虎蔵（たむらとらぞう）」によるもの。●文化財案内板「須賀小学校」



須賀小学校航空写真  
（昭和20年代）

【番号】 128 【分野】 施設／町施設

【名前】 もんましようがっこう  
百間小学校

明治6年に（1873年）、西光院を校舎に進修学校として開校。同8年には宝生院に移転し、同11年に百間小学校と改称し、明治43年に現在地に校舎が建築された。同44年に校舎の一部として建築された進修館は、現在、郷土資料館に移築されている。また、学校敷地は、地藏院遺跡という遺跡で、昭和61年度の体育館とプールの建設に伴う発掘調査では、縄文時代の住居跡等が発見されている。昭和43年に制定された校歌は、作詞「宮澤章二」、作曲「岡本敏明」によるもの。●文化財案内板「百間小学校」



百間小学校航空写真（昭和20年代）



**【番号】 129 【分野】 施設／町施設**
**【名前】** ひがししょうがっこう  
東小学校

昭和8年（1933年）に、地区の住民等の要望を受け、百間小学校の川島分教場として設立。昭和33年に東小学校として独立した。現在も教室として利用されている木造校舎は、昭和30年百間小学校川島分校時代に建てられたもので、昭和の時代の建築物としても貴重である。昭和46年制定の校歌は、作詞「長谷部雅楽」、作曲「丘柴二」、編曲「日向雅男」によるもの。

**●文化財案内板「東小学校」**


東小学校航空写真(昭和30年代)

**【番号】 130 【分野】 施設／町施設**
**【名前】** かさはらしょうがっこう  
笠原小学校

昭和56年（1981年）、児童数の増加に対応するため開校した。校舎は、進修館と同じ象設計集団が設計。「学校はまち」「教室は住まい」「学校は思い出」の三つのコンセプトのもと、宮代町に古くからある切妻型瓦葺の2階建農村住宅をモチーフとした赤い外壁の建物に、クラスごとに独立した玄関、半屋外の廊下、教室の畳コーナーやアルコーブなどが設けられている。昭和61年に制定された校歌は、シングルベルの訳詞等で著名な「宮澤章二」による作詞。作曲は、「平吉毅州（ひらよしただくに）」によるもの。



笠原小学校航空写真(平成27年)

**【番号】 131 【分野】 施設／町施設**
**【名前】** すかちゅうがっこう  
須賀中学校

昭和22年（1947年）新学校制度により創設。同25年10月には、須賀小学校に隣接して木造2階建て8教室の新校舎が建設された。現在の校舎は、昭和47年の校舎焼失後、同48年に建築されたもの。昭和40年に制定された校歌は、作詞「神保光太郎」、作曲「諸井三郎」によるもので、神保光太郎は、日本工業大学の校歌の作詞も手掛けている。



須賀中学校航空写真(平成27年)

**【番号】 132 【分野】 施設／町施設**
**【名前】** もんまちゅうがっこう  
百間中学校

昭和22年（1947年）新学校制度により創設。開校時は、旧青年学校校舎（現中央2丁目）を本校とし、百間小学校と同川島分校を分室として使用した。昭和26年に現在地に新校舎が建設され、当時の生徒数は、382人であった。昭和43年に制定された校歌は、作詞「宮澤章二」、作曲「岡本敏明」によるもの。



百間中学校航空写真(平成27年)



【番号】 133 【分野】 施設／町施設

【名前】 まえはらちゅうがっこう  
前原中学校

昭和58年（1983年）、生徒数の増加に対するため百間中学校から分離開校。開校時の生徒数は、558人であった。現在のグラウンドとなっている前原遺跡の発掘調査では、縄文時代のムラの跡が発見されている。昭和61年に制定された校歌は、作詞「宮澤章二」、作曲「日向雅男」によるもの。



前原中学校航空写真(平成27年)

【番号】 134 【分野】 施設／町施設

【名前】 けんこうまっほ  
健康マツ歩

河川沿いなどに整備された遊歩道。コース上にはベンチや健康器具が設置されている。古利根川沿いには、ぐるる宮代～文殊院橋の「桜堤コース」、須賀地区の「菜の花コース」、百間6丁目付近～川端の「水辺ふれあいコース」がある。隼人堀川沿いには、「健康リフレッシュコース」、用水路沿いの田園景観を楽しむことができる「緑ふれあいコース」の合計5つのコースがある。



健康マツ歩



【番号】 135 【分野】 施設／町施設

【名前】 のうのみち  
農の道

新しい村の整備の一環として造られた遊歩道。内郷用水（うちごうようすい）に沿って、新しい村と西原自然の森を結び、途中には見晴台や休憩場所も設けられている。四季折々の田園風景を楽しみながら散策を楽しむことができる。



農の道

【番号】 136 【分野】 施設／町施設

【名前】 ぶどうのかおるこみち  
葡萄の薫る小径 場所／大字和戸

宮代町で最初に巨峰の栽培が始まったといわれる和戸本郷地区には「葡萄の薫る小径」が整備されている。

【関連題材】 巨峰（番号114）



葡萄の薫る小径



【番号】 137 【分野】 施設／その他

【名前】 にっぽんこうぎょうだいがく、こうぎょうぎじゅつはくぶつかん  
日本工業大学、工業技術博物館 場所／学園台

「にっこうだい」の名で町民にも広く親しまれ、機械や建築、コンピュータ分野などのエンジニアを育成する大学。昭和42年開校。宮代町のまちづくりでも様々なところで協力しており、大学生たちの若い力が、町の活気を支えている。250もの工作機械を、動態保存（実際に動かせる状態）している工業技術博物館もあり、定期的実施されるSLの有火運転は名物になっている。

【国登録有形文化財】工業技術資料（178点）



【番号】 138 【分野】 施設／その他

【名前】 とうぶどうぶつこうえん  
東武動物公園 場所／大字須賀

宮代町を代表するレジャー施設。動物園だけでなく、遊園地も併設され、年間100万人以上が訪れる。花火やイルミネーションなど、四季を通じて様々なイベントが行われ、訪れる人を笑顔にしている。昭和56年オープン。



■本題材例解説書に掲載した題材例は、新みやしろ郷土かるた制作委員会において選定したもので、解説文及び写真等については、制作委員会事務局（宮代町教育委員会生涯学習担当職員）が、制作委員会委員及び宮代町郷土資料館職員の協力を得て、執筆、編集したものです。

■解説文等の作成に際しての、参考・引用文献は、以下に記載のとおりです。

- 宮代町教育委員会 平成6年3月『みやしろ風土記 増補』
- 宮代町教育委員会 平成13年3月『宮代町の中世遺物』『宮代町文化財調査報告書第9集』
- 宮代町教育委員会 平成14年3月『宮代町史 通史編』
- 宮代町教育委員会 平成15年3月『宮代町史 民俗編』
- 宮代町教育委員会 平成16年3月『水と緑の宮代～宮代町史 ビジュアル版～』
- 宮代町郷土資料館 平成12年2月『企画展 The 笠原沼～笠原沼の開発とその歴史～展示解説図録』
- 宮代町郷土資料館 平成17年3月『企画展 宮代再発見 写真でめぐる文化財展 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成18年3月『企画展 江戸時代の東条原 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成18年9月『特別展 笠原沼と笠原沼代用水 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成20年7月『企画展 宮代紀行 西原地区に行く 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成20年11月『特別展 宮代町と岩槻城 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成21年4月『企画展 みやしろ歩け歩け！～写真でめぐる宮代の歴史と文化財～図録』
- 宮代町郷土資料館 平成21年7月『企画展 金原遺跡発掘出土品展Ⅲ 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成22年10月『特別展 江戸時代の絵図 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成24年5月『企画展 宮代紀行～山崎地区に行く～ 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成24年10月『特別展 杉戸宿～杉戸宿と百間領の村々～ 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成25年5月『企画展 写真で見る宮代の庚申塔 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成25年10月『特別展 西光院 歴史と文化財 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成26年3月『企画展 江戸時代の須賀 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成26年7月『企画展 道仏北遺跡発掘出土品展Ⅲ 図録』
- 宮代町郷土資料館 平成27年3月『企画展 江戸時代の百間中島村 図録』
- 宮代町教育委員会 平成6年 みやしろ郷土かるた『応募対象題材 解説書』
- 宮代町教育委員会 平成24年1月『宮代町の郷土資料（道徳教材）－島村盛助、どんぐりピアノ、山崎山－』

施設



## 国指定文化財

**種別名称** 彫刻 木造阿弥陀如来及び  
両脇侍像 (3 軀)

**所在** 東京都台東区上野公園 13-9

**所有等** 西光院/(独)東京国立博物館寄託



## 国登録有形文化財

**種別名称** 歴史資料 工業技術資料

**所在** 学園台 4-1-4

**所有等** 日本工業大学



## 県指定文化財

**種別名称** 建造物 五社神社本殿 (1 棟)

**所在** 字東 90

**所有等** 五社神社



## 町指定文化財

種別	名称	所在	所有者など
無形民俗	東条原獅子舞	東条原 367	東条原獅子舞保存会
工芸品	鰐口 (1 口)	西原 289	宝生院 / 町郷土資料館借用
彫刻	十一面観音像 (1 体)	和戸 808	西方院
古文書	西光院朱印状 (12 通) 付 御朱印箱 (1 点)	東 410	西光院
古文書	西光院中世文書 (2 点)、中世文書写 (3 点)	東 410	西光院
工芸品	姫宮神社絵馬 (3 面)	姫宮 373	姫宮神社
天然記念	大イチョウ	中 38	宝生院
建造物	斎藤家住宅 付 物置・蔵	西原 289	宮代町
建造物	進修館	西原 261	宮代町
建造物	加藤家住宅	西原 289	宮代町
彫刻	阿弥陀如来坐像	西原 289	西原自治会 / 町郷土資料館寄託
古文書	戸田家文書	西原 289	個人 / 町郷土資料館寄託
古文書	折原家文書	西原 289	個人 / 町郷土資料館寄託
考古資料	逆井遺跡第 1 号ブロック出土石器	西原 289	宮代町
古文書	岩崎家文書	西原 289	宮代町
歴史資料	川島庚申塔群	百間 6-655	切戸・川島庚申講中
歴史資料	五社神社箱付和鏡 付 絵鏡及び台座	東 90	五社神社
考古資料	前原遺跡出土縄文時代草創期微隆起線文土器	西原 289	宮代町
古文書	岡安家文書	西原 289・大字東条原	個人 / 宮代町
考古資料	前原遺跡出土旧石器時代石器群	西原 289	宮代町
古文書	関根家文書	西原 289	個人 / 町郷土資料館寄託
彫刻	円空仏 (役行者倚像)	西原 289	宝生院 / 町郷土資料館借用
彫刻	円空仏 (如来形立像)	大字須賀 1264	真藏院
彫刻	円空仏 (菩薩形坐像二軀)	大字和戸 808	西方院
彫刻	円空仏 (恵比須天立像二軀、大黒天立像、護法神像)	大字和戸・西原 289	個人 / 一部町郷土資料館借用
彫刻	円空仏 (阿弥陀如来坐像、菩薩形坐像)	大字和戸	個人
彫刻	円空仏 (菩薩形立像)	大字和戸	個人
彫刻	円空仏 (菩薩形立像)	大字和戸	個人
彫刻	多少庵句碑	東 90	五社神社
彫刻	多少庵俳額	東 90	五社神社
彫刻	多少庵俳額	姫宮 373	姫宮神社
古文書	絹本着色徳川家康画像	東 410	西光院
工芸品	粟田口焼葵紋茶碗	東 410	西光院



# 初代 みやしろ郷土かるた 作品一覧



- |   |                    |   |                       |
|---|--------------------|---|-----------------------|
| あ | 安全に旅をしてねと道するべ      | ね | 年齢をこえて遊ぼうふれ愛センター      |
| い | 古の息吹伝わる鍛冶工房        | の | 残そうよ緑豊かな宮代を           |
| う | 美しき命燃えたり宮目姫        | は | 八千年時代を越える前原遺跡         |
| え | SLに子どももわきたつ日工大     | ひ | 人々の生活を守る消防署           |
| お | お焚き上げ裸足で渡る火渡り祭     | ふ | ふるさとと胸張り呼べる町づくり       |
| か | 笠原の沼を拓いた井沢弥惣兵衛     | へ | 平安の阿弥陀三尊優しいな          |
| き | 清らかな宮代の花ハクモクレン     | ほ | 豊作を願って踊る獅子の舞          |
| く | くちいっばいおいしさひろがる巨峰の実 | ま | 町の名は姫宮身代神社から          |
| け | 健康とおいしさありがとう給食センター | み | 宮代町地図ではまるでエビフライ       |
| こ | ごみのない自然がきれいな宮代町    | む | 無駄をせず資源を生かす衛生組合       |
| さ | 西光院御影供のお祭り楽しいな     | め | 明治より歴史を刻む和戸教会         |
| し | 将軍がおなりおなりと御成道      | も | 森の中歴史見つめる仁王様          |
| す | 少しだけタイムトラベル資料館     | や | 八百比丘尼人魚を食べて八百歳        |
| せ | 節分にみかんを振る舞う五社神社    | ゆ | 夢いっばい子どももいっばい動物園      |
| そ | 空高く伸びよう宮代シイガシの木    | よ | よい子にと願いを込めて初山へ        |
| た | 楽しいなひまわりの家のなかまたち   | ら | 楽々と枝葉伸ばして大イチョウ        |
| ち | 町民の健康守る保健センター      | り | 両岸は桜並木の姫宮落            |
| つ | 鳶からみ夕日に映える進修館      | る | 瑠璃色の時を越えたり観音像         |
| て | 手をつなごう年に一度の体育祭     | れ | 練習の声高らかに運動公園          |
| と | 図書館で豊かな心を育てよう      | ろ | 路傍にて幸せ願う庚申様           |
| な | 夏の夜の灯籠いろどる古利根川     | わ | 鰐口が室町語る宝生院            |
| に | にぎやかに踊る笑顔の宮代音頭     | を | ふれあい【を】広げていこう公民館      |
| ぬ | ぬくもりが心にしみる円空仏      | ん | 備前堀(びぜ【ん】ほり)豊かな実り支えてる |



の  
残そうよ  
緑豊かな  
宮代を



き  
清らかな  
宮代の花  
ハクモクレン



く  
くちいっばい  
おいしさひろがる  
巨峰の実



そ  
空高く  
伸びよう宮代  
シイガシの木